

第3回市民参画部会 ワークショップで得られた日野市の課題・特徴

グループ	テーマ	課題・特徴
みどり	○目指すみどり	丘陵部・崖線部で緑が多い 宅地化が難しい
		公園にもっと特徴を持たせる
		何もない原っぱ
		倉沢・三沢等（拠点）の（ハード面の）大きな緑を守る
		市街地での緑
	○緑を育てる仕組みづくり	植物園が欲しい
		目立たない希少種の見分け方の周知
		日野産の植物を庭で育ててもらう
	○緑を守る仕組みづくり	今、緑が残っている理由や緑の大切さを知るきっかけづくり
		多摩丘陵にある多様な植物（希少ななもの） 今の状態で残す
みどり	緑を守り・育てるための具体的手段	市民緑バンク（仮）
		寄付したい人と活用したい人のマッチング
		余っている土地の寄付を受け入れて活用する組織
		ボランティアのやる気につながる評価制度
		ボランティアへの後ろだて
	○農地減少の要因	民の力を上手く利用する
		市民主体で管理する花だん それをもって宣伝
		手入れコンテスト 評価方法に多様性の視点を
		安全や見た目重視の手入れではなくて、生きものが住めるような手入れ
		現地で特徴を知ることが出来る看板やQRコード
生きもの	○農地減少の対策	樹木にQRコードをつける
		稜線の管理 人の手を入れないで維持できない
		農家の高齢化の問題
		農地減少 相続の問題
		農地が細かくなりすぎている
	-	生産緑地を賃借できない
		都市農業 終身でやらなければならない
		農作物を給食として利用
		日野がモデルケースになれば（それには少なすぎるかも）
		市民参画として体験農園（市民を指導する）
生きもの	OPR	市民農園の推奨
		市民農園をNPOに任せる方向
		国の政策（税法）を変えていかないと難しい
		この二つのバランス
		大きいパッチ（緑地）…多様性にとっては…小さい緑地 自然に親しめる
	○外来種の駆除	造成がうまくない場所・地形（平山等）はそのうち人がいなくなる
		みつけられなくてもアプリで見られる
		アプリなども良いがまずは現地で！！
		公園・緑地のここにいる、ここを通る生きものの名前を表示
		足あとを残す
生きもの	すみか	なぜ守るのか、なぜ駆除するのか、から教える
		知ってもらう背景なぜここにいるのか？
		生活の変化からくる生きものの変化
		ガーデニング売場からのPR
		生きものがなぜそこにいるのかストーリーをもって知らせてあげる
	○生きものの保全・管理	時間的な変化を共に伝える
		市民に対する自然のPR
		水辺に生きもの看板をつくる
		案内版にアプリ 標記
		害獣の認知のために取り組む
生きもの	すみか	コイ・アカボシゴマダラ・ザリガニ
		食べる→利用する
		アライグマ・ハクビシン
		駆除によって生物相は変化するのか？→データをとって裏付ける
		特定外来生物の普及
	○生きものの保全・管理	捕まえるしくみ
		用水・池・原っぱ・湧水・田んぼ・里山・雑木林・崖線・河原
		ホタルの観察
		カワセミ観察エリア
		日野の昆虫
生きもの	すみか	カブトムシ
		緑と清流
		日野の魚
		身近な生きものがいられる体感できる場所 すみか→原っぱなど
		多摩川の自然のすみか
	○生きものの保全・管理	カシ・キク
		雑木林の保全
		植樹
		皆で考えようすべきか議論する
		生息環境作り
生きもの	すみか	生きものにも配慮した水辺管理
		ミドリシジミ環境づくり
		ハンノキを増やす
	○生きものの保全・管理	

※「○」は基本方針（事務局案）に関連付けたテーマ

グループ	テーマ	課題・特徴
水辺 (水)	○水辺の生態系	魚・鳥・植物を含めた生きものが住みやすい、繁殖できる場所 川や用水の生きものが繁殖できる場所の確保（流れのゆるい場所の創出） 生きものがすみやすいような用水路づくり 日野用水は多様な生きものがみられる 水鳥の観察
		体験授業：探す・採る・食べる→やっつけはいけないことなども同時に教える 体験することで知ることができることが多い（湧水・小川など） 小学生が授業で水生生物と親しむ時間をさらに増やしてもらう 川の恵みを知ってもらう機会を作る（川魚、伝統漁法、料理、文化など） 見て体験できる 川辺のゴミ拾い 魚とりとか水空間で遊べる 体験 ・遊ぶ→楽しい ・食べる→おいしい 体験授業の地域差（台地では水辺の体験できない） ガサガサができる場所が増えると良い 川にいく ガサガサをやってみる 観察会をやりたい 「危険なこと」、「やっつけはいけないこと」水辺のリテラシーの育成 「危ない」から「楽しい」
		安全な水辺 人の手がかかっている 水 日野市がすごい 整備された自然 ・生き物を守る ・水を流す ・遊べる → 場所を分ける 生きものがいると水がキレイというワザとらしい用水路を作る どこなら安全か、わかりやすく遊べる・親しむ場所の整備・周知→親しみやすく 田舎と比べると開発された自然というのも日野の特徴 用水が下に降りられるところがある（親水） 降りられるところに生きものの案内板 人の手が加わった水空間
		人が利用した水 用水にきれいな水が入ってくる 川をきれいにする取組 用水路の維持作業への市民参加→人の手で保たれていることを知ってもらう 地形が作る水辺（丘陵）湧水、水田→用水 →左記を利用した生きものの多様性が作られてる 用水が多い 川や用水の中でも生きものによって好む環境が違う 生きものがいることを知らせる
	○水の利用	ワンドをモデル地区で作る 用水整備による水環境の単純化によって多様性が失われている 水辺の役割分担 テーマをもった川辺作り 裸足で遊べる空間を作る取組 守るべき自然の定義 止水域の維持 そこにすむ生物の保全につながる 用水路の中でそれぞれの役割の場所をつくる まずは知ってもらうこと 得すること、面白いことを体験するイベント 日野産野菜を食べるイベント ウォーキングに生物ガイドを付ける 気軽に参加しやすいイベント 広報の方法→興味のない人にどうつなげるか？ 子どもを通じて「大人（親）」にもつなげて、口コミで広げていく 生態系の理解をすすめる場作り（命と命のつながりを再度考えてもらう場づくり） 生きものを増やす施策 自然を考える命の尊重⇔自然の面白さを体験
		生きものを守る日野市民全体周知 生きものとの壁を無くす（ツバメ） ひのちとのコラボ（昔あそび等） 地元の方と転入者との接点づくり 転入者へのアプローチ 日野の魅力を実感してもらう→子育て世代 親世代の巻き込み方 活動に若者・子どもを引き込む 市民活動団体とのコラボレーション 子どもは教えることも好きなのでは？
		給食に日野産の野菜→農業体験 子どもを通じて親を連れて来て巻き込む 小学校教育へ出前授業 小学校での動物飼育 学校を生物多様性の拠点に 学校の授業で必ず生きものにふれる授業を 先生に体験してもらう 子どもたちに生物にふれさせる 先生が自然の授業をしやすい環境をつくる 自然の中での遊ぶ場 川で遊ぶ、山で遊ぶ、小学生へ場を作る
		まちづくりの中で花木の苗を配る 人中心ではなく生きものに配慮した環境管理 PRをしなくても子どもが自然と触れ合えるレベルの量の緑をつくる もっと原っぱを増やす！ ススキの原っぱ 蝶や鳥がくるような植物を植えるとか特徴ある地区→コリドーになる
	○学校支援・地域活動	生きもの豊かなお庭作り区域 自然や生きものに接触する いじる・いじめる 簡単なところから始める 詳しい子供を「日野生きものマスター」に認定する→鳥、虫、みどりなどカテゴリー分けも
		○行政・まちづくり
	○個人・家庭	
		-

※「○」は基本方針（事務局案）に関連付けたテーマ